

令和3年6月第2回定例会一般質問事項（6／14・15）

1 辻 人志 議員（政友会） 【一問一答】

(1) 人口動態を踏まえた学校運営について

- ・この15年間で市内小中学校の学校規模はどのように変化したか。また、今後10年の見込みは。
- ・学校の小規模化が学校運営にどのような影響を及ぼしているか。またそれが、児童生徒にどのような影響を与えていると考えるか。
- ・近い将来、学校統合を視野に入れているか。そうでない場合、小規模校を存続させる方策をどのように考えているか。
- ・将来的な財政負担の軽減を考え、今後他の公共施設との複合化・共用化を図った効率的な学校施設整備が求められると考えるが、見解は。
- ・小学校の存続は地域の存続であるという観点から、地域と学校の協働は不可欠であるが、そのために今後どのような活動が必要だと考えるか。

(2) 坂井市における新型コロナワクチン接種について

- ・市内の新型コロナワクチンの接種状況と今後の見込みを問う。
- ・コールセンターでの電話予約、予約サイトでのネット予約について、それぞれどのような問題点があったか。また今後における課題点は。
- ・ワクチンは国から順調に供給されているのか。今後の供給量の見込みは。
- ・予約のキャンセルなどによって生じたワクチンの余剰分はどのようにしているか。
- ・産業医による職場接種やワクチン休暇の導入、ワクチン接種を終えたことを示す証明書の発行について、市としてどのように考えているか。

2 渡辺 竜彦 議員（志政会） 【一問一答】

(1) 坂井市の災害時要援護者台帳の現状と取り組みは

- ・災害時要援護者台帳の掲載対象になる人たちの、それぞれの登録数と、登録の割合はどのようにになっているのか。
- ・また今年度は災害時要援護者支援制度への名簿登録の更新の時期にあたるが、登録率アップに向けての取り組みと、現在までの進捗状況は。

(2) 坂井市の人口の現状は

- ・出生数の目安となる妊娠届であるが、昨年（2020年）の、坂井市の妊娠届はどれくらいだったのか。
- ・最新の坂井市の人口の自然動態と社会動態はどのようにになっているのか。
- ・現在、市が取り組んでいる主な人口減少対策と、それぞれの現状はどのようにになっているのか。

3 山田 秀樹 議員（志政会） 【一括】

(1) 子どもたちの遊び場と新庁舎の市民活用について

- ・雨天が多く、地域の見守りや公園などの施設が減っていくなか、子どもたちが思いっきり楽しめる安心安全を売りにした大型屋内児童遊戯施設に対する所見を伺う。

- ・現在、ほぼ平日のみの営業である子育て支援センターだが、土日も営業してはいいかがか。
- ・市役所と市民の関係は協働の時代に移りつつある。庁舎には今までの窓口業務や情報発信などの業務執務機能に加え、市民利用機能の融合が求められる。坂井新庁舎が市民一人一人に愛されるための方策を伺う。

4 川畑 孝治 議員（政友会） 【一問一答】

(1) カスタマーハラスメントについて

- ・カスタマーハラスメントについて、市の認識はどうか。
- ・カスタマーハラスメントについて、市の対策は。
- ・教育現場、行政窓口・サービスにおいてのカスタマーハラスメントは。

(2) ゼロカーボンシティ宣言後の取り組みについて

- ・ゼロカーボンシティに向けた行動計画ロードマップの策定は。
- ・ゼロカーボンシティに向けた市民への周知協力要請は。
- ・環境都市宣言を行っている自治体としての取り組みは。

5 近藤 哲行 議員（政立会） 【一問一答】

(1) Uターン、IターンのPRと助成事業

- ・UターンIターン等の助成金制度は何か。また、県外に就職せずに坂井市に住んで就職する人には助成金制度はないのか。
- ・関西方面にテレビコマーシャルで「福井に帰ってきねのーそれも坂井市やざー！きつといいことあるでのー」など福井弁でふるさと納税等を使って流してはいいかがか。

(2) ヤングケアラーとは

- ・ヤングケアラーとは何か、市はどのように認識しているか。またそれに関わっているかどうかを把握しているか。
- ・親がヤングケアラーを子どもにやらせた場合、法律違反になるのか。
- ・ヤングケアラーとお手伝いの違いは何か。

(3) タブレット導入のその後

- ・タブレット導入にあたり授業がどのように変わってきたのか、また、どのように今後変わっていくのか伺う。
- ・子どもたちの反響はいいかがか。
- ・ロボットも導入されて、子どもたちの反響はどうだったか。

6 吉川 貞明 議員（政友会） 【一括】

(1) 坂井市の農業施策について

- ・農業機械整備に対する支援について。
- ・坂井市が進めるスマート農業について。
- ・坂井市の米消費拡大について。
- ・坂井市の農業人口と今後の課題について。

(2) 防災対策について

- ・本市の防災に関する取り組みについて。
 - ・防災合宿の今後の取り組みについて。
- (3) 新型コロナウイルスワクチン接種について
- ・本市におけるワクチン接種状況について。
 - ・高齢者に対する取り組みについて。
 - ・障がい者に対する取り組みについて。

7 戸板 進 議員（志政会） 【一問一答】

- (1) 観光に関する各種計画の進捗状況と今後の方向性について
- ・坂井市観光客入込数、観光産業経営状況について、2019年と比較した2020年の状況はどのようになっているのか。
 - ・平成29年3月に策定された、坂井・あわらエリア周遊滞在型観光推進計画整備スケジュールによると、(1)ファミリー層を中心とする東尋坊周辺リゾート・ゾーン(2)東尋坊・丸岡城・吉崎御坊跡・三国湊町を繋げた歴史文化ライン形成(3)周遊滞在促進のための基幹整備について令和4年度までスケジュールが示されている。この計画の進捗状況について伺う。
 - ・坂井・あわらの連携については、ふくい嶺北連携中枢都市圏事務でも、観光分野においてワーキングをつくり、事務方として何をやるか会合を開いていると以前の一般質問で答弁されているが、どのような成果ができてしているのか。
 - ・越前加賀インバウンド推進計画の中で、ICTを活用して越前加賀の魅力を感じることができる整備計画があったが、各施設の整備状況はどのようになっているのか。
 - ・各種計画においては、計画の進捗状況、事業の見直しなど常に評価できる評価委員会が必要だと考えるが、所見を伺う。

8 前川 徹 議員（政和会） 【一括】

- (1) 義務教育の充実を図るために
- ・児童生徒数の減少に伴い、今後小規模な小中学校が増加することが予想されるが、その傾向と対策は。
 - ・グローバル化が急速に進展する中、柔軟に対応する力や異なった価値観を理解し認め合う力を養うことが必要だが、小中学校においてどのような学習を行うのか。
 - ・スマートフォン、タブレット端末、SNSなどの普及に伴い、ネット上のいじめやネット依存などの懸念がある。より一層の情報モラルの向上および望ましい生活習慣の確立に取り組むべきと考えるが。
 - ・人間関係の希薄化が叫ばれている今日、「豊かな心の育成」が以前にもまして重要となっている。人間関係形成力や自己有用感を高める教育をどのように進めていくのか。
 - ・県立高校入試が3月上旬から2月中旬に繰り上げられたが、中学校のカリキュラムに及ぼす影響と対策は。
- (2) 青少年の郷土愛やシビックプライドを醸成していくために
- ・ふるさとに誇りや愛着をもつことをねらいとした小中学校の取り組みは。

- ・地元の県立高校3校それぞれに対する坂井市の取り組みと方向性は。
- ・県外学生への仕送り「ふるさとを遠くで見守る応援事業」を生かして、地元の魅力やニュース、企業情報などを定期的に発信し、U・Iターンに結びつく取り組みができないか。

(3) 生涯スポーツのまちづくりを目指して

- ・地元選手や地元チームの活躍は、市民に大きな活力と誇りを与え、地域スポーツの振興や活性化にもつながる。市内トップアスリート・チームのPR、支援をさらに充実すべきと考えるが。
- ・多くのスポーツ施設で老朽化が進んでいる。施設マネジメント計画を策定することになっているが、施設改修に必要な財源確保の方針は。
- ・生涯スポーツのまちづくりを進めるにあたり、「坂井市スポーツ振興基本計画」を早期に策定すべきと考えるが。

9 後藤 寿和 議員（志政会） 【一問一答】

(1) 坂井市の観光変革に向けて

- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入に向けたハードルも高いが、観光やシティセールスのDXに向けて本市はどのように取り組んでいくのか。
- ・デジタルサイネージを導入し、駅・バスターミナル・アンテナショップ・観光地・まちなかに設置して情報発信や季節のイベント等を流していき、観光地を結んでいくべきと考えるが、所見は。
- ・本市独自の宿泊予約サイトを新設して、地域の宿泊業者や旅行業者の活性化に繋がられないか。
- ・観光客支援に、観光アプリを新設してはどうか。
- ・前回質問したVR・ARの導入に向けての進捗状況は。
- ・駅やバスターミナル、まちなかに音楽をかけて（例えば三国駅なら三国節など）観光地ならではの歓迎ムードの醸成をしてはどうか。

10 上坂 健司 議員（政和会） 【一括】

(1) コロナ後遺症と本市の経済、企業対策について

- ・コロナ禍や複雑多様な課題で、苦境に立つ中小企業景況や推移分析はどうか。また、相談状況と支援状況についてはどうか。
- ・コロナ禍における国の支援金、持続化給付金の活用状況の分析はどうか。
- ・コロナ後遺症、人口減少、少子高齢化、経営者の高齢化や後継者不足、また大型店舗の進出等で商店街の存続に影響がある等、課題が潜在化している中、新たな企業活性化支援や地域経済好循環実現への戦略はどうか。
- ・商工会と商工会議所では何が違ってくるものなのか。また、メリット・デメリットはどうか。内容次第では、今後、商工会議所への組織変更があり得るのかどうか。

(2) 三国祭をユネスコの「山・鉾・屋台行事」の登録へ

- ・人口減少の時代を迎える中で、山車に係る費用や引手など、地域住民の負担が大きくなっており、維持していくための市の支援策はどうか。

- ・伝統があり、毎年作り変える山車を飾る作り物など、独自性があり嶺北地方への影響も大きく、登録要件の資格は十分あると認識されるが、見解はどうか。
- ・祭りの歴史的な重要性を明らかにするには調査などが必要と考えるが、今後の取り組みはどうか。

1 1 畑野 麻美子 議員（日本共産党議員団） 【一括】

(1) 保育現場の業務負担軽減と処遇改善で保育の充実を

- ・業務負担軽減として、クラスに1台のパソコン台数を増やし、いつでも自由に使えるようにすること。
- ・処遇改善として、時間外手当を正確につけることを園長の責任として、管理者として指導すること。
- ・保育士間の保育や子どもの育ちを共通理解するための話し合いや振り返り、教材準備の時間をどこでとれていると考えるか。ゆとりある時間を確保するために、ゆとりある人員配置と正職員を増やすこと。
- ・会計年度職員の月額と日額の仕事の任務の違いに、それ相応の手当をつけるべき。
- ・認定こども園では保育教諭、保育所、幼保園では保育士と位置付けられている。何が違うのか。保育教諭、保育士ともに行政職と区別して専門職の給与体制にしては。

(2) 坂井市子ども条例の制定を

- ・子どもの権利を保障し、子どもが幸せに暮らすことができるまちを実現するために、坂井市子ども条例の制定を求める。

(3) 坂井市がゼロカーボンシティを目指す取り組みの具体化を

- ・第2次坂井市環境基本計画にある課題と行動計画について、どのように具体化していくのか。
- ・環境省では令和3年度における環境省重点施策事業がいろいろとあげられている。坂井市にとって実施可能なあるいは必要な事業は何と考えるか。
- ・まずは、各まちづくり協議会などと連携し、それぞれの地域での課題と行動計画を話し合うことから始めることが大事では。

1 2 永井 純一 議員（公明党） 【一括】

(1) コロナワクチン接種について

- ・今後、市民のワクチン接種者の増加と長期戦を鑑み、医師、看護師の健康を考え、県などに医師、看護師など医療従事者の確保を求め、接種体制の維持、増強をぜひ図ってほしい。
- ・ワクチン接種期間において職員の健康被害を出さないことと、それにより市民サービスの低下を招かないよう体制をとることを市長に求める。
- ・障がい者や医療的ケア児者へのきめ細かな配慮をお願いする。
- ・基礎疾患を有する者などを含め一般接種の対象者への接種券の発送時期は。
- ・12歳以上の者への接種に対する考え、検討状況は。

(2) 気象防災アドバイザーの活用について

- ・災害が起こっても一人の犠牲者も出さないとの思いと、我が市の防災力向上のため、

気象庁が取り組み始めた気象防災アドバイザーの活用を求めるが、所見を伺う。

(3) 「生理の貧困」について

- ・坂井市の実態を把握しているのか。
- ・声に出せない方もいる。困っている方がいることを前提に、防災備蓄の生理用品のローリングストックの活用や国の購入補助金を活用し、必要な方に配慮した形で無償提供を実施してほしいと思うが、所見を伺う。

1 3 前田 嘉彦 議員（政和会） 【一括】

(1) 事務事業評価シートの活用と市政の見える化について

- ・本庁と支所の新体制スタートを振り返ってみて感じたことはどのようなことがあったか。
- ・坂井市がスタートして事務事業評価シートが作成されたと思うが、その目的と活用方法や分類などはどのような経過で行われてきたのか。
- ・これまでの事務事業評価の課題をどのようにとらえているのか。
- ・職員間の業務引継ぎや事業遂行の一助となるようなことも含めての事務事業評価シートの見直しを考えてはどうか。
- ・専門家参加型や市民参加型など第三者による事務事業評価を行い、ホームページなどで公表し、市政の見える化を推進してはどうか。
- ・事務事業評価シートに沿って、部の仕事目標や課の仕事目標を明確に掲げ、目標内容や事業の進捗状況を公表し、市政の見える化を推進してはどうか。

1 4 松本 朗 議員（日本共産党議員団） 【一括】

(1) 国民健康保険税の子どもの均等割りの廃止を

- ・国の制度にとどまることなく、すべての均等割りを無料にすることを目指しつつ、当面18歳までの子どもの均等割りの廃止を求める。
- ・そのための市の財源の必要額はいくらか。

(2) 生活保護の扶養照会についての厚生労働省の通知による影響と改善

- ・課長通知により、扶養照会実務はどのように変わったのか。
- ・扶養照会を行うにあたって、「要保護者の意向を尊重すべき」であるが、その「尊重」はどのように担保されるのか。
- ・真に保護を受けるべき市民が申請できるためには、扶養照会は、「申請者の事前の承諾」を認めるべきでないか。

(3) 学校給食費半額事業は、就学援助家庭を排除するな

- ・この事業の政策決定過程では、この点の検討はなされたのか。
- ・就学援助の家庭にも補助を行うための財源額は。
- ・この予算が成立したならば、就学援助家庭に実質同額の支援を行うべきと考えるが。

(4) コロナ禍の下での営業を守るために

- ・市が、直接自営業者の実態調査を行うことを求める。
- ・市内業者が売り上げ不振等で倒産、廃業の実態はいかがか。

- ・県の「持続化給付金」に上乗せする事業を実施するなどして営業を守るべきでないか。

15 三宅 小百合 議員（政友会） 【一括】

- (1) アフターコロナの観光戦略として美食のまちづくりを
- ・当市における食産業の取り組みは。
 - ・持続可能な食産業の取り組み状況は。
 - ・米の消費拡大の支援と今後の取り組みは。

16 佐藤 寛治 議員（政和会） 【一括】

- (1) 福井港、テクノポート福井の活用について
- ・福井港、テクノポート福井の現状と今後の在り方についての所見を伺う。
 - ・福井港、テクノポート福井をカーボンニュートラルの拠点としてはどうか。
 - ・福井港の特定地域振興重要港湾の指定振興分野はレクリエーションとなっているがこれをどのように受け止めているのか。また、これを変更すべきと考えているのか伺う。

17 川端 精治 議員（志政会） 【一問一答】

- (1) 第二次坂井市教育振興基本計画の具体的な取り組みについて
- ・令和元年度から英語教育の充実および推進を目的とした英語教科指導員が配置され、教育現場からは大きな評価を得ている。教科担任制が導入されるにあたり、英語教科指導員の今後の具体的な活動方針を伺う。
 - ・「部活動の在り方に関する方針」では、2021年度までに中学校の部活動数を教員数のおおむね2分の1になるよう見直しを行うとなっている。本市の5つの中学校の現状と方向性は。
 - ・本市の小学校プールの老朽化が進行している現状を踏まえ、第二次坂井市教育振興基本計画では、代替施設として市内の屋内プール利用を検討していくとしているが、具体的な運用計画は。
 - ・本市のスポーツ施設の老朽化が懸念されている。第二次教育振興基本計画においても、改修や修繕が必要であると明記されている。今後の施設や設備の改修計画は。
 - ・福井国体に向け整備・改修した三国運動公園ではあるが、こども広場の遊具や池、駐車場などの再整備が必要と考えるが所見は。